

7・4 外航日本人船員(海技者)確保・育成スキーム

国土交通省、全日本海員組合、国際船員労務協会、および、当協会の4者で構成する「外航日本人船員(海技者)確保・育成推進協議会」(事務局:日本船員雇用促進センター(以下、SECOJ))は、2014年度より旧制度を見直し、未就業の三級海技士資格受有者(含む予定者)に半年間の育成訓練を施し、外航船社への就職を促す「外航日本人船員(海技者)確保・育成スキーム」(以下、スキーム)を実施している。

このスキームは、外航船員の採用を希望する企業と三級海技士資格受有者(含む予定者)との「合同面談会(マッチング)」を開催し、そこで企業と合意の得られた者を研修生とし、海技大学校等における陸上研修および外航商船における乗船訓練を受け、外航船社への就職を目指すものである。スキームの定員は年間20人程度であり、新スキーム1期生から11期生までの11年間に215人が外航船員として就職した。

2025年度からカリキュラムの変更を行い、研修の2分化(前期・後期)を実施。これにより、研修時期を選択できるようになり、船上研修(もしくは陸上研修)を必要としない船社への利便性を高めた。同時に、経費削減効果もあり、予算の範囲で受け入れ人数の拡大が可能となった。また、2026年2月には国費にて第1回外航オンライン合同説明会を実施、説明会参加者に合同面談会への参加を促すことを主目的として開催した。

今後も予算のあり方とスキームの見直しを国土交通省および関係団体と共に継続して検討する。

これまでのスキーム生就職状況

2026年3月1日現在

	参加者	海事産業 就職者			自主 退出
		外航	内航	他	
旧スキーム生就職実績 (2008~2013年)	98	53	18	13	14
新スキーム生就職実績 (2014~2025年)	254	215	0	1	16
新旧制度の合計	352	268	18	14	30

以上